

2024年度 公立大学法人大阪第4回役員会議事要旨

日時：2024年9月11日（水）9時30分～10時30分

場所：阿倍野キャンパス医学部学舎1階応接室

構成員：福島理事長、辰巳砂副理事長、酒井理事、東山理事、櫻木理事、高橋理事、重松理事
（オンライン）、中村理事、宮部理事、帯野理事（欠席）、藤沢理事（オンライン）、藤本理事

監事：白井監事、前田監事

陪席者：露口本部事務機構長、大久保本部事務機構次長、石井本部事務機構次長、
富宅医学部・附属病院事務局長、千田総務総括部長、柴山企画総括部長、船野学長室長、
石田総務部長、森岡企画部長、寺田医学部・附属病院事務局事務部長、片山総務課長

【審議事項】

1 2025年度予算編成方針について

担当理事および財務担当部長より、2025年度予算編成方針について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・予算編成について、収入に関する戦略の検討状況について教えていただきたい。
→今年度から新設された産学官民共創推進室で今後進める事業においてファンドの形成が課題であると認識しており、戦略的な投資を加速したい。また、併せて、多方面からの寄附も募るよう目標を立てて取り組んでいきたい。
- ・予算編成期間が長期間に及ぶと、予算確定時には世界情勢が当初より異なる可能性もある。そのため、研究費部分については流動的な扱いを可能にする、或いは予算編成をシンプルに行う等の工夫をしていただきたい。
→公立大学という性質上、設立団体の予算スケジュールに縛られる部分もあるので一定予算編成期間が長くなることは致し方ないが、経営目線で財務担当と調整しながら予算編成事務の改善を検討したい。
- ・目的積立金の執行について、全学的システムは3年間で17.4億円となっているが、大阪府市との予算折衝はどのような状況なのか。
→大阪府市に対して、物価高の影響、キャンパスの面積増加による施設管理費の増加およびシステム更新費等、運営費交付金の要求を実施しているが、全ての要求を受け入れるのは厳しいとの回答である。

2 理学研究科生物化学専攻の募集停止について

担当理事より、理学研究科生物化学専攻の募集停止について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<主な意見等>

- ・高分子や中分子の研究に移行する中で、従来の薬学部ではなく、高分子の研究は重要であるので、新薬を開発するベンチャー企業が生まれることを期待している。
- ・一般的に薬学部は6年制が多いが、他大学の薬学部の学生が創薬科学研究科を受験した場合は何年生になるのか。また、修了した際に取得できる学位は何か。
→修了後に受験することは可能である。中退者でも大学として卒業に準ずると認めれば受験は可能だが、受験資格等は今後検討予定である。博士前期課程、博士後期課程ともに

学位名称は創薬科学である。

- ・創薬科学研究科の新設について、他大学と比較してどのような強みがあるのか。
→理・工・農・情報・獣医・医学の異分野融合教育および製薬企業による授業や演習等を実施することで、企業目線で価値の高い創薬研究者を育成できることが強みであると考えている。

【報告事項】

1 臨時監査にかかる法人対応について

担当理事より、臨時監査にかかる法人対応について説明がなされた。

【その他事項】

なし

【備考】

オンライン会議システムを併用した役員会は、適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議等を終了した。

以 上